

研究代表者氏名	三浦 正幸			研究組織	1人	
所属機関・部局・職	東京大学・大学院薬学系研究科・教授			所属機関所在地	東京都 文京区	
研究課題名	発生と変性における細胞死による神経選択機構の分子遺伝学的基盤					
研究の概要等	<p>器官形成の基本的なプロセスは細胞分裂・誘導・細胞分化にあるが、それと同様に重要なプロセスとして細胞除去による細胞選択がある。最終的に作られた器官では、それぞれの細胞は適切な細胞間相互作用をもち、それに適応したものが選択されている。適応した細胞の選択は、神経系では多様性を持った神経細胞ネットワークを作る基礎になっていると考えられる。細胞選択では適切な細胞の選別と除去機構が働いており、具体的には細胞社会での細胞死制御が鍵を担っている。個体発生の様々な場所で観察される細胞死の調節は、周りの細胞との相対的な相互関係に依存していると考えられ、その実行機構においても多様である。すなわち、類似した性質を持ったほぼ均一な細胞集団の中から、ある特定の細胞のみを抽出・決定するメカニズムの存在が示唆され、これは神経発生や神経変性での選択的細胞死を理解する上で極めて重要である。本研究は、ショウジョウバエを用いた遺伝学的な手法で神経細胞除去に関与する遺伝子群を同定し、その知見を生かし今までアプローチの難しかった発生と病態で観察される哺乳類神経系の細胞選択機構を遺伝学的に明らかにしようとするものである。</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	<p>1. Kuranaga, E., Kanuka, H., Igaki, T., Sawamoto, K., Ichijo, H., Okano, H., and Miura, M.: Reaper-mediated inhibition of DIAP1-induced Drosophila TRAF1 degradation leads to JNK activation. Nature Cell Biol. 4, 705-710, 2002</p> <p>2. Igaki, T., Kanda, H., Yamamoto-Goto, Y., Kanuka, H., Kuranaga, E., Aigaki, T., and Miura, M.: Eiger, a TNF superfamily ligand that triggers the Drosophila JNK pathway. EMBO J. 21, 3009-3018, 2002</p>					
研究期間	平成15年度～18年度（4年間）					
研究経費（16年度以降は内約額）	平成15年度 千円 26,500	平成16年度 千円 27,900	平成17年度 千円 18,600	平成18年度 千円 18,600	平成19年度 千円	合計 千円 91,600
ホームページアドレス	なし					